合同シンポジウム

第三部　第 15 回 合同パネルディスカッション
地理空間情報とデジタル社会の融合

一般社団法人 地理情報システム学会関西支部

第 15 回 合同パネルディスカッション
「地理空間情報とデジタル社会の融合」

◆コーディネータ

エアロトヨタ株式会社
空間情報事業本部　自治体アセット事業部　　浅野 和仁

◆パネリスト

国土交通省国土地理院　基本図情報部長	飯田　洋
朝来市　都市整備部建設課	白箸 理一
大阪府　都市整備部事業調整室技術管理課	田河 寧之
一般社団法人 OSGeo 日本支部（エアロトヨタ株式会社）	勝部 圭一
和歌山大学　システム工学部環境デザイン領域	川角 典弘

資　料

第 22 回 若手技術者・研究者による技術研究発表会
発表要旨

一般社団法人　日本写真測量学会関西支部

『第 22 回若手技術者・研究者による技術研究発表会』プログラム

日本写真測量学会関西支部主催の若手技術者・研究者による技術研究発表会を，大阪会場と東京会場の 2 つの会場をリモートで接続して開催いたします。第 22 回を迎える発表会プログラムは，空間情報の計測・基礎から応用にわたるさまざまなテーマで構成された内容となっています。発表会では，同支部役員による審査によって優れた発表を「優秀研究発表賞」として表彰します。

なお，一人当たりの発表時間は 20 分（発表：13 分，質疑応答：7 分）となります。

日時：2026 年 9 月 11 日（金）10:00~18:05

場所：（**大阪会場**） 大阪公立大学　I-site なんば 2 階 カンファレンスルーム C1
大阪市浪速区敷津東 2-1-41 南海なんば第 1 ビル 2 階 (https://www.omu.ac.jp/isite/access/)

（**東京会場**） 東京農工大学　府中キャンパス 先進学際科学府棟 202 室
東京都府中市幸町 3-5-8 (https://www.tuat.ac.jp/outline/overview/access/fuchu/campus_map/)

プログラム：

10:00~10:05　開会のあいさつ

セッション 1　研究・技術報告 1

司会：山下 恵（東京農工大学）

10:10~10:30　ハンディーレーザを用いた道路台帳図の作成の検討
北山 綾乃（国際航業株式会社）[東京会場]

10:30~10:50　ハンディ型 LiDAR スキャナを用いた 3DGS データの作成とその課題
浅井 天摩（株式会社パスコ）[東京会場]

10:50~11:10　UAV によるモルタル吹付のり面の空洞化推定のためのオルソ画像作成と温度差分解析
平原 大和（アジア航測株式会社）[大阪会場]

11:10~11:30　SmartSOKURYO POLE を活用した現地調査効率化の取組み
大村 理貴（株式会社パスコ）[大阪会場]

休憩（11:30~11:40）

セッション 2　研究・討議 1

司会：木村 優介（大阪工業大学）

11:40~12:00　自治体政策の土地取引価格を介した評価可能性の検証　―明石市を事例として―
松位 美咲（兵庫県立大学）[大阪会場]

12:00~12:20　テーマカラーと視認性・地域性を考慮した駅前広場における色彩の評価
野坂 太陽（大阪工業大学大学院）[大阪会場]

12:20~12:40　トリップチェーンのクラスタリングによる行動分析　－市民と観光客との移動の空間的違いに着目して
平山 隼太郎（京都大学大学院）[大阪会場]

昼休憩（12:40~13:40)

セッション 3　研究・技術報告 2　　司会：出口 智恵（国土地理院）

13:40~14:00　標高改定に伴う河川縦横断図作成手法について
姉崎 海斗（国際航業株式会社）[大阪会場]

14:00~14:20　ユースケース開発による 3D 都市モデル（LOD1 相当 時系列津波シミュレーション）データ整備の取組み
太田 悠介（株式会社パスコ）[大阪会場]

14:20~14:40　航空レーザ測量における効率化に関する検討 ―CountryMapper-S の活用事例―
本間 凪々海（アジア航測株式会社）[大阪会場]

14:40~15:00　空中写真で作成した DCHM における林冠空隙の再現性と航空レーザデータとの比較
伊神 飛鳥（国際航業株式会社）[東京会場]

休憩（15:00~15:10）

セッション 4　研究・討議 2　　司会：吉村 充則（日本大学）

15:10~15:30　UAV 画像に基づく群落構造情報を用いたイネ生育期における Sentinel-1 後方散乱特性の解析
三浦 葉月（東京農工大学大学院）[東京会場]

15:30~15:50　異なる衛星データとの組合せを想定した SGLI アルベドプロダクトの検討
木村 優太（京都大学大学院）[大阪会場]

15:50~16:10　地図情報に基づく歩道橋の評価と存廃判断の手法
小松 龍ノ介（大阪工業大学大学院）[大阪会場]

16:10~16:30　人口減少社会における長期的人口変化を前提とした資源配分問題としての初等中等教育施設の検討　加古川市域を例として
田辺 武守（兵庫県立大学大学院）[大阪会場]

休憩（16:30~16:40）

セッション 5　研究・討議 3　　司会：須﨑 純一（京都大学）

16:40~17:00　ドライブレコーダーの射影特性に関する研究
橘田 侑樹（摂南大学大学院）[大阪会場]

17:00~17:20　高空間分解能衛星画像を活用した建物単位での空き家推定手法の開発
辻野 翔大（摂南大学大学院）[大阪会場]

17:20~17:40　横断歩道における歩行者行動の多様性に着目したすれ違い歩行
一宮 知可（大阪工業大学大学院）[大阪会場]

17:40~18:00　緩勾配による歩行者動線と停留行動分析
戸田 竜雅（大阪工業大学大学院）[大阪会場]

18:00~18:05　閉会のあいさつ
18:20~　表彰式・懇親会

以上

『第 22 回　若手技術者・研究者による技術研究発表会』
2026 年 9 月 11 日開催
発表要旨

セッション 1　研究・技術報告 1

北山　綾乃（国際航業株式会社）:「ハンディーレーザを用いた道路台帳図の作成の検討」

道路管理者は道路法に基づき道路台帳の調製・保管が義務付けられており，昭和 52 年頃から全国で一斉に整備された。これまで道路台帳の品質は経験が豊富な技術者により担保されてきたが，近年は技術者の高齢化に伴う担い手不足が深刻化し，道路台帳の品質を確保するために，現地調査結果の再現性も重要になってきている。

一方で，近年の技術革新により，経験が豊富な技術者でなくてもスマートフォンやハンディレーザ等を用いて高精度なデータが取得できる環境が整いつつある。

本報告では，専門的な知識のない若手技術者がハンディレーザを活用し，道路台帳図を作成することについて検証した結果を報告する。

浅井　天摩（株式会社パスコ）:「ハンディ型 LiDAR スキャナを用いた 3DGS データの作成とその課題」

3D Gaussian Splatting（3DGS）は，三次元空間を高精細かつ写実的に表現できる新たな手法として近年注目されており，測量や施設管理分野での活用が期待されている。一方で，これらの分野において実務利用を進めるためには，視覚的な再現性だけでなく，座標情報や位置精度を担保したデータ整備が重要となる。本発表では，ハンディ型 LiDAR スキャナで取得した画像および点群から 3DGS データを作成した事例を紹介するとともに，データ作成時の処理手順や精度確保に関する検討結果を示す。また，業務利用を見据えた 3DGS データの作成・活用における課題や留意点について発表する。

平原　大和（アジア航測株式会社）:「UAV によるモルタル吹付のり面の空洞化推定のためのオルソ画像作成と温度差分解析」

本発表では，宮崎県日南市の国道 220 号沿いに位置するモルタル吹付のり面を対象に，UAV に搭載した熱赤外線カメラによる温度計測を実施し，吹付背面の空洞化状況を推定するための基礎資料を作成した。

昼間，夕方および翌朝に取得した熱画像からサーマルオルソ画像を作成し，各時期の温度差分解析を行った。その結果，のり面上部に比べ法尻部で温度差分が大きい傾向が確認された。その箇所では亀甲状亀裂や遊離石灰の発達が顕著に認められた。

以上の結果から，本手法は吹付背面の空洞化や劣化の可能性を把握するための基礎資料取得手法として有効であり，健全度評価に資する効率的なスクリーニング手法の一つとして活用が期待される。

大村　理貴（株式会社パスコ）:「SmartSOKURYO POLE を活用した現地調査効率化の取組み」

SmartSOKURYO POLE とは，「森林での現地調査」に着目して企画・開発されたツールであり，主に逆打ちによる境界杭の探索や境界候補点の座標計測，位置座標をもった写真撮影に用いられている計測機器である。

本発表では，数値地形図作成における現地調査効率化の取組みとして，逆打ちによるナビゲーション，高精度な座標による写真活用の事例を報告する。

セッション 2　研究・討議1

松位　美咲（兵庫県立大学）:「自治体政策の土地取引価格を介した評価可能性の検証　―明石市を事例として―」

少子高齢化が進行する中，地方自治体では様々な政策が実施されている。これまで，個別政策の評価を行う際の評価の測定事例は存在する。自治体の首長によりパッケージとして提案された政策を，総合的に評価した事例は限られる。そこで本研究では，地方公共財の古典的な定理の一つであるヘンリー・ジョージ定理を参考にし，周辺環境の

属性などを反映して地価が形成されるというヘドニック・アプローチを併用して，自治体の政策を実勢地価の変化により評価することについての妥当性について，議論したい。兵庫県明石市での特定の首長が提案した政策パッケージの評価を具体例にとり，その効果の測定の試みについて，討議を行いたい。

野坂 太陽（大阪工業大学大学院）:「テーマカラーと視認性・地域性を考慮した駅前広場における色彩の評価」

本研究は，駅前広場における物理的な色彩・地域の象徴色・サインの色彩が，利用者にどのように認知されるかを明らかにし，ユニバーサルデザインの観点から色彩計画のためのデータを得ることを目的とする。具体的には，Python を用いて視覚特性条件での駅前広場の視界を再現し，サインや路線カラー，地域テーマカラーの識別性をΔE 色差，コントラスト比，色領域の混同度などの指標で定量評価する。さらに，視点位置ごとの色彩を比較し，象徴色が色覚特性者にとってどの程度機能するか等を検証する。最終的にはこれらの分析を通じて，地域性の伝達と視認性を両立する駅前広場の色彩・サイン計画モデルの構築を目指す。

平山 隼太郎（京都大学大学院）:「トリップチェーンのクラスタリングによる行動分析 －市民と観光客との移動の空間的違いに着目して」

大規模人流データにより，大量の人々のトリップチェーンの記録を取得できるようになったが，その可視化や分析の試みは訪問箇所や，移動時間，移動距離の集計など限定的なものとなっている。特に，訪問箇所の座標とその順序に基づいて空間的に近いトリップチェーンで形成されたクラスタを抽出して，可視化，分析を行う事例がみられなかった。そこで今回はトリップチェーンそのものである移動の連なりでできたルートに着目してクラスタリングを行う。オーバーツーリズムの観点から，クラスタリングにより，市民と観光客の周遊・回遊行動の空間的な違いを把握することを試みた。

セッション 3 研究・技術報告 2

姉崎 海斗（国際航業株式会社）:「標高改定に伴う河川縦横断図作成手法について」

全国の標高成果が令和 7 年 4 月 1 日に「測地成果 2024」へ改定されたことに伴い，河川定期縦横断測量への適用が必要となった。新規の横断図作成には支障がない一方で，経年比較を目的とした既存の横断図（測地成果 2011）との重ね合わせにおいて，左右岸の河川距離標で標高改定量（補正量）が異なるため，従来の横断図を最新の成果へ重ね合わせる際に図面上のズレが発生する課題が生じた。そこで本報告では，国土地理院提供の「Web 版 PatchJGD」を用いて河川距離標を補正し，これら測地成果の異なる横断図を精度よく重ね合わせ，正確な河床変動等の経年変化を把握するための横断図作成手法について検討した結果を報告する。

太田 悠介（株式会社パスコ）:「ユースケース開発による 3D 都市モデル（LOD1 相当 時系列津波シミュレーション）データ整備の取組み」

2020 年から国土交通省が主導する，日本全国の 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト「PLATEAU」が進められている。各自治体においても 3D 都市モデルが持つ強み（視認性・再現性・双方向性）を活かした様々なユースケースが検討ならびに開発されている。今回は，自治体Aにおいて取り組んだ「想定最大浸水の三次元可視化事業」の内，3D 都市モデルデータ（LOD1 相当 時系列津波シミュレーション）整備に関する作業事例を紹介する。

本間 凪々海（アジア航測株式会社）:「航空レーザ測量における効率化に関する検討 —CountryMapper-S の活用事例—」

近年，測量業界においても少子高齢化の進行に伴う担い手不足が課題となっている。一方で，航空レーザ計測機器の性能向上により取得点密度が増加したことでデータ処理に要する作業負荷も増大している。 このような背景を踏まえ，本発表では，弊社が新たに導入した，空中写真撮影と航空レーザ測量を同時に実施できるハイブリッドセンサー「CountryMapper-S」の特徴について紹介する。また，高密度化する点群データの処理工程の効率化を目的として

実施した処理の自動化の検討内容と，その適用効果について報告する。 さらに，実運用を通じて明らかとなった課題を整理するとともに，今後のさらなる生産性向上に向けた改善策について考察する。

伊神 飛鳥（国際航業株式会社）:「空中写真で作成した DCHM における林冠空隙の再現性と航空レーザデータとの比較」

森林資源情報の把握手段として航空レーザ計測（LiDAR）が活用されているが，その代替手法として，空中写真からステレオマッチングによって作成した点群データを利用する手法が注目されている。しかし，空中写真から作成した点群データでは，林冠の空隙によって生じる急激な樹冠高変化を捉えることが困難であるという課題がある。また，作成される点群データは空中写真の重複度（ラップ率）の違いによっても，林冠形状の再現性が変化する。本研究では，航空機から撮影した写真を一定間隔で間引いて疑似的にラップ率の異なる空中写真のセットを作成し，ラップ率の違いが林冠空隙の再現性や計測精度に与える影響について検討した。

セッション 4 研究・討議 2

三浦 葉月（東京農工大学大学院）:「UAV 画像に基づく群落構造情報を用いたイネ生育期における Sentinel-1 後方散乱特性の解析」

イネの広域生育モニタリングには，天候の影響を受けにくい SAR 衛星の活用が有効である。本研究では，Sentinel-1 画像から得られる VV/VH 後方散乱係数と，UAV 画像による群落高モデルおよび表面粗さ情報を用いて，イネ生育期における群落構造と後方散乱特性の関係を解析する。さらに，偏波情報に基づく散乱特性の変化を検討し，SAR によるイネ生育モニタリングの高精度化に向けた基礎的知見を得ることを目指す。

木村 優太（京都大学大学院）:「異なる衛星データとの組合せを想定した SGLI アルベドプロダクトの検討」

気候変動予測の重要な指標である陸域アルベドを推定する際には BRDF のパラメータを利用する方式が一般的である一方，この手法には複数日の多方向反射率観測データを必要とする問題が存在する。そこで，本研究では，SGLI の観測データに対して，同一地点の高頻度観測が可能な静止気象衛星「ひまわり 8/9 号」に搭載された可視赤外放射計 (AHI)の観測データを併用し，短期間の観測結果から全球のアルベドを推定する可能性を検討した。地上 BRF 計測結果および衛星の実画像を用いたアルベド推定の結果，SGLI のデータ数が不足している地点において，AHI のデータを追加することで推定精度を担保できる可能性が示された。

小松 龍ノ介（大阪工業大学大学院）:「地図情報に基づく歩道橋の評価と存廃判断の手法」

高度経済成長期に整備された歩道橋の一斉老朽化に伴い，効率的な存廃評価が急務となっている。現在，一部の先進自治体による撤去の手引きが他地域へ一律に流用される例が見られるが，インフラの特色や地域差は考慮されていない。本研究はこれまでの知見に基づき，需要や代替性，劣化状況等の要素を包括し，地域差も考慮した全国共通の存廃判断の評価手法の構築を目的とする。具体的には，近隣インフラや学校への距離といった地図情報（GIS データ）を用いて各歩道橋の撤去可能性を定量化し，現地調査を伴わない机上での順位づけ手法を開発する。これにより，複雑な地域特性に左右されない，普遍的かつ適正なインフラ管理の実現に寄与する。

田辺 武守（兵庫県立大学大学院）:「人口減少社会における長期的人口変化を前提とした資源配分問題としての初等中等教育施設の検討 加古川市域を例として」

現在，日本では少子高齢化に伴う人口減少により空間的人口構造が大きく変容している。また，平成の市町村合併以降，人口や財政の問題により公共施設の統廃合の検討と再編が行われている。以上を踏まえ，施設配置問題の一例として初等中等教育機関を例とし，人口減少社会における将来の長期的人口の変化を前提とした小・中学校等の初等中等教育機関の施設及び教職員等の資源配分問題について研究により，今後の人口構造の変化を踏まえた適切な施設配置や，社会的効率性をもたらしうる統廃合を空間的な定量的指標を用い研究する意義について討論したい。

セッション 5　研究・討議 3

橘田　侑樹（摂南大学大学院）:「ドライブレコーダーの射影特性に関する研究」

三次元都市モデルの広範囲かつ安価な整備手法として，ドライブレコーダー映像の活用が考えられる。しかし，走行映像をもとに生成された点群には車両の進行方向に対して傾きや湾曲が生じる等の課題が確認されている。この要因として，フロントガラスを透過して撮影することによって生じる歪みやローリングシャッターの影響，カメラの内部パラメータ推定時の不適当な射影モデルの選択等が考えられる。そこで本研究では，複数のドライブレコーダーを対象とし，フロントガラスの影響を除いた条件下でカメラキャリブレーションを行い，各カメラ固有の射影モデルを推定し，ドライブレコーダーの射影特性について比較・検討を行った。

辻野　翔大（摂南大学大学院）:「高空間分解能衛星画像を活用した建物単位での空き家推定手法の開発」

近年，我が国では人口減少，高齢化および住宅需要の変化に伴い，空き家の増加が社会問題となっている。自治体では空き家の実態把握のため現地調査が実施されているが，多大な時間と労力を要する。本研究では，大阪府寝屋川市を対象に，建物単位の空き家推定モデルを構築するため，高空間分解能衛星画像から深層学習により抽出した建物周辺環境の荒廃情報を建物属性，人口指標および水道利用情報と統合し，説明変数として採用した。さらに，XGBoost と TabPFN を用いたアンサンブル機械学習に適用し，建物単位での空き家推定を実施するとともに，推定性能を検証し，衛星画像から得られた建物周辺環境情報を説明変数として導入することの有効性を検証した。

一宮　知可（大阪工業大学大学院）:「横断歩道における歩行者行動の多様性に着目したすれ違い歩行」

近年，歩行者中心の都市空間形成が進められている。一方で，既存のシミュレーションでは歩行者を均等に扱うことが多く，歩行者行動の多様性が周囲の歩行環境に与える影響について考慮されていない。本研究では，歩行空間における歩行者行動の多様性に着目し，歩行軌跡の相互関係を用いて定量的に分析することを目的とする。大阪市内の横断歩道を対象にビデオ調査をおこない，歩行者の位置をもとに相互関係を評価した。その結果，すれ違い時には約 45cm 以上の距離が保たれ，カーネル密度推定値 0.6 以上では進路変更が生じやすいことが確認された。さらに，歩行者の軌跡の偏位や方向変化は前方密度や左右の密度差と関係する可能性が示された。

戸田　竜雅（大阪工業大学大学院）:「緩勾配による歩行者動線と停留行動分析」

近年，国土交通省による「歩行者利便増進道路（ほこみち）」制度の創設を背景に，滞在可能で魅力ある歩行空間の整備が求められている。本研究では，京都市円山公園を対象に，動画撮影により取得した歩行者の軌跡と停留位置および視線方向を来訪方向別に分析し，空間構造との関係を検討した。その結果から，緩やかな勾配に基づく歩行者動線予測を行ったものの緩やかな勾配のみでは歩行行動を十分に説明できず，停留位置は来訪方向や周辺環境に応じて特徴的に分布することを確認した。以上より，歩行行動は移動と停留を含む複合的な現象として捉える必要があり，停留行動を考慮した歩行空間の評価手法の構築が重要であると考えられる。

資　料

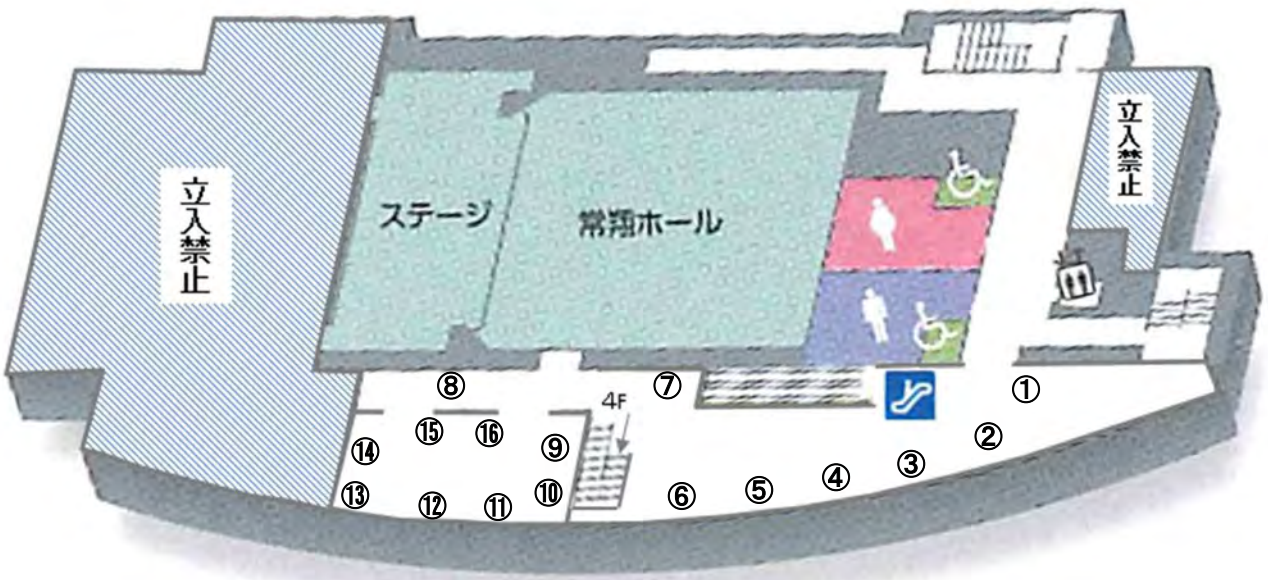
地理空間情報関連の機器・システム等の展示会

公益社団法人　日本測量協会関西支部

一般社団法人　大阪府測量設計業協会

地理空間情報関連の機器・システム等の展示会

3階



①NTTインフラネット㈱

②福井コンピュータ㈱

③アジア航測㈱

④㈱日本インシーク

⑤復建調査設計㈱

⑥(公社) 日本測量協会関西支部

⑦㈱コノエ

⑧国土地理院近畿地方測量部

⑨国際航業㈱

⑩エアロトヨタ㈱

⑪㈱かんこう

⑫㈱インフォマティクス

⑬ESRIジャパン㈱

⑭クモノスコーポレーション㈱

⑮GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会

⑯㈱パスコ

関西G空間フィーラム2026　機器・システム展　出展者一覧表

	出展者名	出展内容
①	ＮＴＴインフラネット㈱	■ちばんMAP Webブラウザ上で簡単に地図や航空写真、地番情報、ハザード情報等をご利用頂けるサービスです。 インフラ維持管理、不動産分野などでの活用事例を、デモンストレーションを交えてご紹介します https://geospace.nttinf.co.jp/products/chiban-map.html ■ちばんAPIワイド システムに組み込み、地番や筆界、面積、用途地域、ハザード情報を利用した開発を可能とするAPIサービスです。 さらに2026年10月より、新機能として道路幅員データを提供します。 接道条件確認、融資審査等の業務に活用することで、業務効率化と意思決定の高度化を支援します。 https://geospace.nttinf.co.jp/products/chiban-api-wide.html
②	福井コンピュータ㈱	TREND-ONE（測量計算CADシステム） TREND-POINT（点群処理システム） TREND-CORE（BIM/CIMコミュニケーションシステム） TREND RODE Designer(BIM/CIM道路設計３Dシステム） TREND-FIELD（電子平板システム） FIELD-POCKET（測量観測システム）
③	アジア航測㈱	■3D都市モデル（PLATEAU）を活用した業務支援 ○開発許可申請管理システム 都市空間の複雑な情報を、3D都市モデルをベースに統合管理。開発許可手続きの事前相談から開発許可申請までワンストップで実現し、行政事務を効率化する。 ○カーボンニュートラル施策推進支援システム 3D都市モデルを活用した太陽光発電シミュレーションをOSSとして提供。地域の脱炭素政策の推進に貢献する。 ■災害時のGIS（ALANDIS）活用 ○令和８年熊本地震 令和8年7月28日に発生した熊本県を震源とするマグニチュード7.1の地震では、宇城市において最大震度7を観測。GISに登録した「通行規制情報」を防災ポータルへリアルタイムに公開し、住民や関係機関への情報提供を支援。平常時から災害時まで一貫して活用できる実効性の高いGIS環境とその仕組みを提供
④	㈱日本インシーク	＜パネル＞ LCMS（路面性状調査） LidarSLAM（ウエラブルスキャナ） ナローマルチビーム UAVレーザ
⑤	復建調査設計㈱	●屋内ナビゲーションの社会実装に向けた取組紹介 GPSが利用できない屋内空間で、環境地図とスマートフォンのカメラを活用して現在地を推定し、音声・振動・AR表示で目的地まで案内する屋内ナビゲーションをご紹介します。ビーコン等の専用機器を設置せず、視覚に障がいのある方をはじめ、誰もが迷わず移動できる屋内環境の実現を目指した取組です。 ●VR技術を活用した仮想洪水体験システムの操作体験 SLAM計測等で取得したデータを用いて再現性の高い仮想空間を構築し、浸水状況の変化や避難場所までの避難行動を体験できる仮想洪水体験システムをご紹介します。臨場感のある避難体験を通じて、水害リスクを「自分ごと」として捉え、災害時に取るべき行動を学ぶことができます。
⑥	（公社）日本測量協会 関西支部	「測量機器・測量成果の検定」についてのパネル展示及びプロモーションビデオの上映 測量で得られる成果（結果）は、地図や社会の基盤情報として広く活用されているため、使用機器や測量の方法に誤りがあると、行政や民間での利活用に支障が生じる。測量に使用される機器や方法および計算等に誤りがないか確認するため、国土交通省を初め国や多くの地方公共団体などが第三者機関による検定を用いている。この検定について、パネル展示とプロモーションビデオを上映して説明を行う。
⑦	㈱コノエ	3Dレーザースキャナー用カート ハンディスラム用ターゲットテープ 測量明示用品
⑧	国土地理院近畿地方測量部	＜パネル展示＞ ・国土地理院の使命（測る、描く、守る、伝える） ・全国の地図を３次元化しデジタル社会を実現 ・高さに関する情報を正確に把握 ・地理院地図（中・小縮尺タイル）のリニューアル ・国土地理院の災害対応と支援_令和8年熊本地震 ・その他（防災地理情報、自然災害伝承碑）
⑨	国際航業㈱	3D都市モデルについて、Project PLATEAUで整備した高精度なモデルをベースに以下のユースケースをご紹介します。（動画、実機、パネル展示） ・津波時系列シミュレーション ・火災延焼シミュレーション ・人流シミュレーション

関西G空間フィーラム2026　機器・システム展　出展者一覧表

⑩	エアロトヨタ㈱	【災害復旧サービスの提供】 ① 動画展示 「地理空間情報と空のモビリティを駆使した災害復旧サービスの提供」 近い将来、当社が提供を目指す災害復旧サービスのイメージ動画を紹介します。 https://www.youtube.com/watch?v=GZyUx1c15Ak ② 実機展示 「3D都市モデルを活用したシミュレーション」 Project PLATEAUで整備された高詳細な建築物モデルを中心に空間再現ディスプレイにより仮想現実（VR）での表示例をご紹介します。 ③ HP紹介 「リアルタイム災害情報システム」：G空間情報センター 令和8年熊本地震に関する各機関・各社の災害情報提供ページが集約されたWebサイトをご紹介します。 https://front.geospatial.jp/rtds/
⑪	㈱かんこう	①Project PLATEAUの業務実績（パネル展示およびPCによる実データ投影） ②各種測量技術（航空測量、MMS測量、現地調査端末）の紹介（パネル展示）
⑫	㈱インフォマティクス	インフォマティクスは、空間情報システムを核として、より高度で安全安心な社会を実現するための情報基盤を構築し、業務効率化・省力化を支援するアプリケーションやサービスを提供いたします。 ■ご紹介製品 ・SIS （GIS） ・GeoConic／GeoCloud （GIS） ・GyroEye （XRシステム）
⑬	ＥＳＲＩジャパン㈱	ArcGISとは ArcGISプラットフォームのご紹介 ArcGIS利用事例紹介 ArcGIS × 3D
⑭	クモノスコーポレーション㈱	1.FARO社製固定型3Dレーザースキャナ 「Focus PremiumMAX」 2.XGRIDS社製ハンディ型3Dレーザースキャナ 「Lixel L2Pro・Lixel K2・PortalCAM」
⑮	ＧＩＳ大縮尺空間データ 官民共有化推進協議会	道路占用協議システムの紹介他
⑯	㈱パスコ	・ドローン搭載型グリーンレーザースキャナ「TDOT Green」 ・3D計測と光切断法で道路管理のDXを推進「Real Dimension」 ・高機能・三次元GISソフトウェア「Terra Explorer」

① NTT インフラネット㈱

NTTインフラネット　NTTグループの電子地図「GEOSPACE(ジオスペース)」

GEOSPACEラインナップ

Web サービス

Webブラウザで
利用するための
各種サービス





Web化

**クラウド配信
API サービス**

コンテンツ単品や
GISへの組み込み利用











API化

GIS 基盤コンテンツ

コンテンツ単品や
GISへの組み込み利用









GEOSPACEの特徴

膨大なデータを80以上のレイヤで保持	全国を網羅した建物形状、住所、道路情報、行政界、郵便番号界、地番・筆界などを80以上のレイヤで保持しています。
航空写真と地図のズレなし	航空写真から地図を制作しているため、写真と地図の背景表示を切り替えても表示位置の"ズレ"が発生しません。写真上で描いたルート（ライン）やエリア（面・ポリゴン）は、地図上でもそのまま"ズレなく"お使い頂けます。（一部、航測写真のない山中等を除く。）
無償で印刷＆申請不要	GEOSPACE製品の複製物※1は無償かつ申請不要で地図や写真データを利用できます※2（ただし衛星画像を除く） 利用可能な例：各種書類（報告書、提案書、工事関連書類等）、印刷物（パンフレット、リーフレット等）、Webサイト、アプリ等 ※1 複製物とは地図データ等より生成された印刷物または画面コピーをいいます。 ※2 ご契約内容及び GEOSPACE 製品利用ライセンス交付証明書、利用許諾条件書に沿う範囲内のご利用に限ります。

お問合せ先：NTTインフラネット株式会社　GISビジネス西日本営業担当　　TEL:06-6282-7181　URL:https://geospace.nttinf.co.jp/　K-10【2610-2701】

② 福井コンピュータ㈱

福井コンピュータソリューション

測量計算CAD



TREND-ONE



FIELD-POCKET

android現場観測アプリ

標高成果
改定対応

3DGS
対応

対応機種
更新

ONE連携
対応

点群処理・測量



TREND-POINT



TREND ROAD Designer

BIM/CIM道路設計
3 DCAD

③　アジア航測㈱



④　㈱日本インシーク



⑤　復建調査設計㈱

1 屋内ナビゲーションの社会実装に向けた取組紹介

直感的な屋内ナビゲーションで、誰もが迷わず目的地へ



音声・振動・AR表示で目的地まで案内

共創パートナー：株式会社 Ashirase ／アジア航測株式会社

2 VR技術を活用した仮想洪水体験システムの操作体験

リアルな浸水体験で、水害リスクを「自分ごと」に



再現性の高い仮想空間で避難行動を体験

業務実績：仮想洪水体験システムの社会実装に向けたシステム適用性検討業務
（令和6年度、国立研究開発法人土木研究所）

▶ 現地実証映像　やVR 体験 をブースで　限定公開！

▼ 事例詳細 はこちらから

こんな方は
ぜひブースへ

自治体・行政の方　施設管理者の方　交通事業者の方　学生の方

お問合せ先｜大阪支社 技術部空間情報課
〒532-0004
大阪市淀川区西宮原1-4-13
Mail: forum2026@fukken.co.jp

屋内ナビ　仮想洪水体験

復建調査設計株式会社
FUKKEN CO.,LTD.

⑥　(公社)日本測量協会関西支部

「正確な測量が、未来の安心を造る」

―測量成果は、社会基盤づくりの出発点です―

日本測量協会では、測量の技術を広め、技術者の皆様が測量を学んだり最新の技術に触れられる場をつくるほか、検定業務を通して測量成果の品質を守る活動を行っています。

測量技術を知ってもらう活動

講習会を開催し、各種イベントに参加することで、測量のことをもっと多くの人に知っていただく活動をしています。また、測量技術者の皆様のさらなるスキルアップに貢献することはもちろん、次世代の担い手となる、測量を知らない方々にも積極的に普及啓発活動を行っています。



講習会の開催



ふれあい土木展への出展

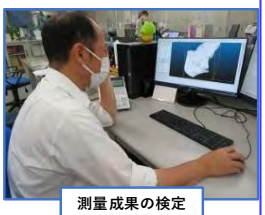
検定の仕事

国や自治体等が行う基本測量・公共測量を対象に、「測量機器」と「測量成果」の検定を実施しています。地図や図面等の測量成果は建設や都市計画などの基礎となるため、間違いがあると後続作業に大きく影響します。

日本測量協会は検定機関として、測量成果の品質確保に貢献しています。



測量機器の検定



測量成果の検定

本会場では、プロモーションビデオやパネル展示を通じて、様々な活動をご紹介しています。

公益社団法人日本測量協会　関西支部
【測量教育・図書】　TEL：06-6636-9774　mail：kansai@jsurvey.jp
【測量技術・検定】　TEL：06-6636-9772　mail：kansai-geo@jsurvey.jp

⑦　㈱コノエ

（株）コノエ

コノエ測量明示用品



ﾀｰｹﾞｯﾄﾃｰﾌﾟ



3Dﾚｰｻﾞｰｽｷｬﾅｰ用ｶｰﾄ



⑧　国土地理院近畿地方測量部

国土地理院 近畿地方測量部

国土地理院

3次元電子国土基本図の提供開始
～2026年4月～順次提供～



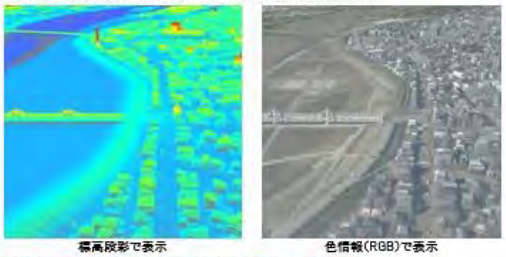
「地理院地図」中・小縮尺ﾀｲﾙﾘﾆｭｰｱﾙ～
2026年9月～順次提供～

広範囲での詳細な地形・地名・建物等が把握できるようになりました

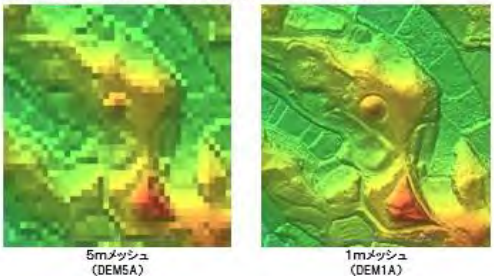


高さに関する情報を正確に把握
～高精度標高データの整備～

点群データ
造物や植生を含む表層面の高さのデータです（新潟県長岡市）

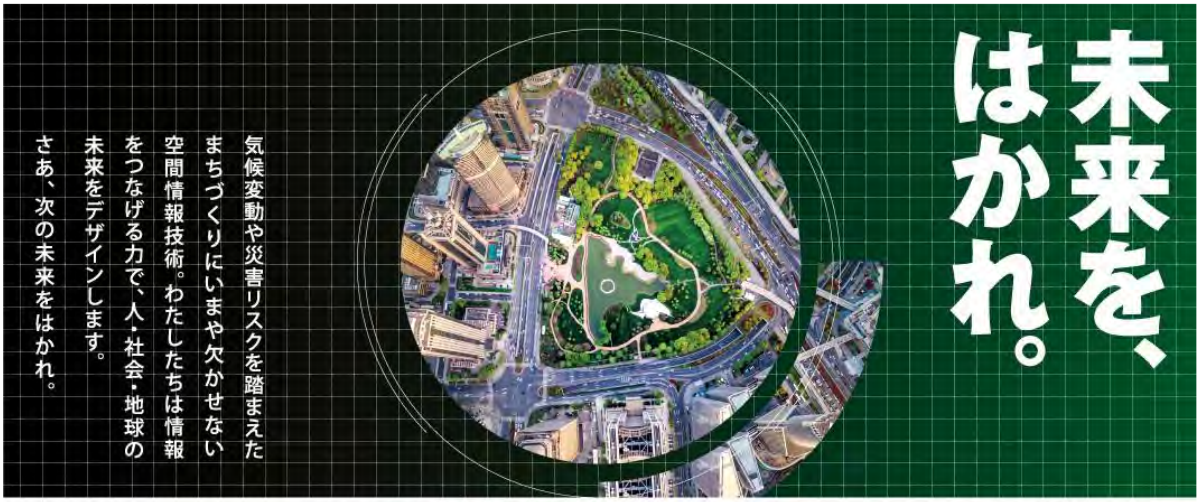


基盤地図情報（数値標高モデル）
地表面の高さのデータです（奈良県明日香村 高松塚古墳周辺）



ホール前方入口前⑧にお立ち寄りください

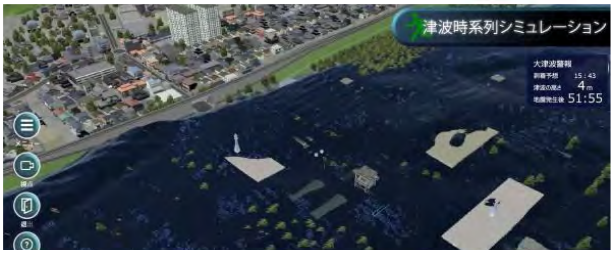
⑨　国際航業㈱



空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる

国際航業

www.kkc.co.jp/



3D都市モデルのユースケース
津波時系列シミュレーション・
火災延焼シミュレーション等を
展示します

⑩　エアロトヨタ㈱

関西G空間フォーラム 2026

空と地図で、災害に強い明日へ。

地理空間情報× 空のモビリティ× リアルタイム防災情報

会場でご紹介する3つの展示コンテンツは、災害にかかわる取組事例の紹介としてまとめました。

01



動画展示

「地理空間情報と空のモビリティを駆使した災害復旧サービスの提供」

近い将来、当社が提供を目指す災害復旧サービスのイメージ動画を紹介します。精密な3D地形データを認識しながら自動航行するドローンの姿をご覧いただけます。

精密な3D地形データを認識した自動航行 ／ VIDEO STILL

02



実機展示

「3D都市モデルを活用したシミュレーション」

Project PLATEAUで整備された高詳細な建築物モデルを中心に、空間再現ディスプレイによる仮想現実（VR）での表示例をご紹介します。

3D都市モデルデータを認識した自動帰航 ／ Project PLATEAU

平時より整備している3Dコンテンツを使用し、迅速な災害対応ルートの選定からシミュレーションまで、災害対応の可視化を実施します。

一方、各社が災害時に撮影した成果は、G空間センターに提供することで広く活用することが出来ます。

03



HP紹介

「リアルタイム災害情報システム」
—G空間情報センター

令和8年熊本地震に関する各機関・各社の災害情報提供ページが集約されたWebサイトをご紹介します。

リアルタイム災害情報：令和8年熊本地震 ／ G空間情報センター

弊社は、2025年7月1日付で、社名を朝日航洋株式会社より『エアロトヨタ株式会社』に社名変更いたしました。

AERO TOYOTA

会社概要
代表者：西日本空情支社 支社長 松村 伸二
所在地：大阪府吹田市垂水町3丁目3番31号
連絡先：06-6338-3321

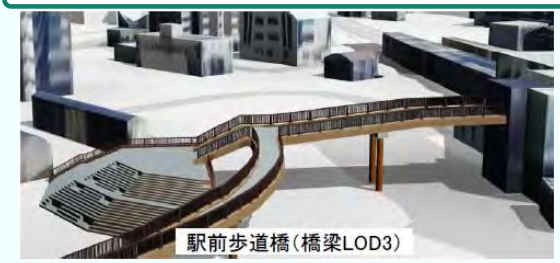
⑪　㈱かんこう

総合建設コンサルタンツ

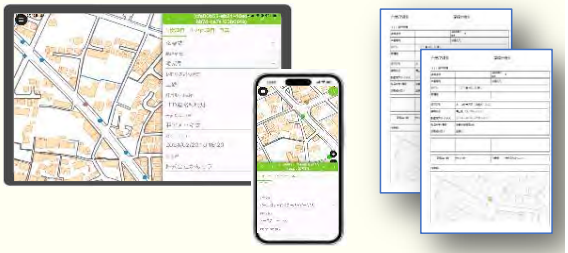
株式会社かんこう

かんこうHP

Project PLATEAU



クラウド型調査ツール



航空レーザ計測(CityMapper-2)



MMS(移動体計測システム)



お問い合わせはこちら

〒536-0006 大阪市城東区野江1丁目12番8号　Tel：06-6935-6910(代表)

⑫　㈱インフォマティクス

informatix

未来を創る
空間情報イノベーションカンパニー

インフォマティクス は空間情報技術を核として、より高度で安心安全な社会を実現するための情報基盤を構築し、
業務効率化・省力化を支援するアプリケーションやサービスを提供いたします。

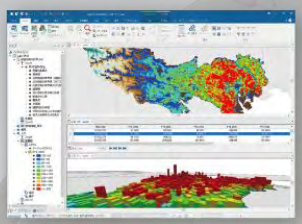
1分の1スケールの図面実寸投影で建設現場に革命を

GyroEye（ジャイロアイ）



充実した地図表現 高度な空間解析

SIS SPATIAL INFORMATION SYSTEM



業務システムの構築、地図配信サービスに最適なGIS

GeoConic　GeoCloud



株式会社 インフォマティクス　www.informatix.co.jp　info@informatix.co.jp

【本社】川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー27F Tel:044-520-0850【大阪営業所】大阪市浪速区難波中2-10-70なんばパークス内パークスタワー17F Tel:06-6633-0803

⑬　ESRIジャパン㈱



⑭　クモノスコーポレーション㈱



⑮　GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会

GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会の取組

本協議会は、官民が所有する大縮尺空間データ(1/500レベル地形図)を相互に流通させ
大阪地区における空間基盤データの共有化を目指す取組を行っています

本協議会の主な成果として
地理空間情報(地理院地図)を活用したライフラインの電子化の取組を紹介します！

◆調整会議システム



◆埋設物調査システム



オンラインで位置情報、工事内容の情報を登録
(埋設物調査システムはオンライン回答可能)

【効果】窓口来訪の削減、ペーパーレス、道路占用業務の効率化、円滑な工事調整
⇒　埋設企業体及び行政の双方の負担軽減と建設ＤＸの推進につながる！

- GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会は下記の団体が集まって取り組んでいます
  大阪府、府下市町村(大阪市のぞく)、大阪ガスネットワーク(株)、NTTインフラネット(株)、(株)NTTフィールドテクノ、関西電力送配電(株)、
  (一社)大阪府測量設計業協会、(一社)GIS支援センター、地理情報システム学会関西支部、大阪土地家屋調査士会、学識経験者
- 事務局：大阪府都市整備部事業調整室

⑯　㈱パスコ

インフラ分野のDXを推進する各種技術の紹介

ドローン搭載型グリーンレーザースキャナ - TDOT Green

河川・港湾・海岸において維持管理を実施する際、地形や構造物の状態を把握したうえで管理計画を策定し、適切な修繕を行いつつ管理を実施する必要があります。地形等の状態を把握する際、陸部と水部で異なる手法を用いたり、一定間隔での横断測量や深浅測量、構造物の点検計測など、作業の手間と時間を要していました。地上と水底を同時に高精度に三次元計測することで作業を効率化するとともに、地形を面的にとらえることで土砂の移動などを定量的に把握することが可能となる技術を紹介します。



3D計測と光切断法で道路管理のDXを推進 - Real Dimension

弊社では、舗装調査を実施する際、これまでは舗装調査専用車両を用いて実施してきました。一方、道路管理では舗装の他にも多種多様な管理が求められます。パスコは、道路管理の効率化と高度化を目指し、異なる目的の三次元計測を同時に行うことができるシステムを新たに開発いたしました。高精度3Dカメラ画像、3Dレーザ計測、全周囲連続カメラ画像から自動処理で舗装点検結果を導きだせるとともに、各種点検や地図作成にも活用できるデータを提供することが可能です。



REAL Dimension



三次元点群データ



全周囲画像データ

三次元空間情報を、もっとそばに - Terra Explorer

「Terra Explorer」は、三次元地理空間情報を直感的に扱える高機能ビューワです。航空測量やレーザ計測などで取得した高精度データを統合し、都市や地形をリアルに再現。視覚的に分かりやすい操作性で、専門知識がなくても空間情報を効果的に活用できます。都市計画やインフラ管理、防災対策の現場において迅速な判断を支援し、業務効率を大幅に向上。多様なデータ共有にも対応し、関係者間の連携を強化する次世代のソリューションです。



PASCO
西日本事業部　〒556-0017　大阪市浪速区湊町1-2-3　TEL:06-6630-1902 FAX:06 -6630-1905